

平成20年度病虫害発生予報第6号の発表について

向こう1か月の主要な病虫害の発生動向についての予察情報及び病虫害防除に関する栽培管理について解説します。

病虫害防除の主な留意点

- ・ 全国的には、6月後半以降、高温・小雨となったこともあり、病害について特に問題となる発生は見られていません。しかし、北海道及び東北では、7月中下旬以降に前線及び低気圧の影響で日照不足、多雨、低温となっている地点があり、一部で、いもち病（穂いもち）の発生が懸念されています。
- ・ 現在、病害の発生が少ない作物でも、今後、大雨や日照不足、台風の襲来などによって病害が多発する場合がありますので、気象状況に留意して、防除対策を行ってください。
- ・ 一方、害虫については、6月中旬以降の天候が害虫の発生に好適な条件（高温・小雨）となったことから、水稻、大豆、果樹のカメムシ類、果樹及び野菜類のアザミウマ類及びハダニ類などの発生が多くなっています。
- ・ 特に、これから出穂期を迎える水稻では、着色粒の原因ともなる斑点米カメムシ類に注意が必要です。
- ・ 今後、効率的かつ効果的な病虫害防除を行うため、作物の生育状況、気象予報に注意しつつ、都道府県が発表する発生予察情報を活用して、適切な病虫害防除を行ってください。
- ・ なお、薬剤による防除を実施する場合には、病虫害が薬剤への抵抗性を獲得しないように、同一系統薬剤の連続使用を避けるとともに、飛散対策を講じてください。

用語の解説

1. 【発生量（程度）】

- ・ 多い（高い）：やや多いの外側10%の度数の入る幅
- ・ やや多い（やや高い）：平年並の外側20%の度数の入る幅
- ・ 平年並：平年値を中心として40%の度数の入る幅
- ・ やや少ない（やや低い）：平年並の外側20%の度数の入る幅
- ・ 少ない（低い）：やや少ないの外側10%の度数の入る幅

（平年値は過去10年間の平均）

2. 【地域】

- ・ 北海道：北海道

- ・ 東北：青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
 北東北：青森県、岩手県、秋田県
 南東北：宮城県、山形県、福島県
- ・ 関東：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
 北関東：茨城県、栃木県、群馬県
 南関東：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
- ・ 甲信：山梨県、長野県
- ・ 北陸：新潟県、富山県、石川県、福井県
- ・ 東海：岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
- ・ 近畿：滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
- ・ 中国：鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
- ・ 四国：徳島県、香川県、愛媛県、高知県
- ・ 九州：福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県
 北九州：福岡県、佐賀県、長崎県、大分県
 南九州：熊本県、宮崎県、鹿児島県
- ・ 沖縄：沖縄県

【稲】

(いもち病)

- ・ 全国的に6月中旬以降、降水量が少なく、日照時間が長かったため、葉いもちの発生は抑制され、全国的に発生量は平年以下となっています。また、今後の発生も、平年以下と予想されます。しかし、北海道及び東北では7月中下旬以降、前線や低気圧の影響で日照不足、多雨、低温となっている地点があり、今後も天候がいもち病菌の感染に好適な条件（降水量が多く、日照時間が短い）が続くと、急速に発生が広がる可能性があります。このため、長期残効性薬剤を施用した本田であっても、注意深く見回り、早期の発見に努めるとともに、発生を認めた場合は、早期に薬剤を散布してください。
- ・ また、上位葉に葉いもちの病斑が見られるところでは、穂いもちの発生が懸念されます。薬剤散布は、穂ばらみ期及び穂揃期に実施してください。穂いもちの発生は、南東北の一部で「やや多い」と予想されることから、注意報が発表されています。
- ・ なお、薬剤を使用する場合は、一部の薬剤に対する耐性菌が認められているので、都道府県から発表されている耐性菌の分布情報を参考にして、薬剤を選定してください。

（紋枯病）

- ・ 紋枯病は、高温・多湿が続くと発生が助長されます。6月中旬以降、全国的に気温が高く推移していることから、本病の発生は、早期水稲では南九州の一部で「やや多い」、普通期水稲では南関東、北陸の一部で「やや多い」ほかは、平年以下となっています。なお、1か月予報では気温は高いとされており、今後の発生は、北東北の一部で「多い」、北陸の一部で「多い」又は「やや多い」、南東北、南関東及び九州の一部で「やや多い」と予想されます。穂ばらみ期から出穂期に発生が見られる場合は、発生状況に応じて薬剤を散布してください。

（白葉枯病）

- ・ 白葉枯病の発生は、南九州の一部で「やや多い」ほかは、平年以下となっています。また、今後の発生も全国的に平年以下と予想されます。しかしながら、台風、大雨等により水稲が浸冠水した場合には、激発することがあります。本病は浸冠水の約10日後に葉先に近い肩の部分に黄白色の初期病斑が形成されるので、本田の見回りの際には、葉を注意深く観察し、病斑の早期発見に努めるとともに、病斑を認めた場合には薬剤を散布してください。

（斑点米カメムシ類）

- ・ 斑点米カメムシ類の発生は、全国的に多い傾向にあり、8月6日までに14府県から18件の「注意報」が発表されています。
- ・ 水田畦畔や休耕田のイネ科雑草及び水田周辺のイネ科牧草（イタリアンライグラス等）を草刈りする際には、カメムシ類の発生状況に注意して行ってください。特に、水稲の出穂期前後に出穂したイネ科雑草等を刈り取ると、カメムシ類の水田への飛び込みを助長するので注意してください。
- ・ 薬剤による防除を行う場合、散布時期については、都道府県病虫害防除所から発表される発生予察情報を参考にしてください。

（海外飛来性害虫）

- ・ トビイロウンカの飛来量は、近畿の一部の「やや多い」ほかは、平年以下となっています。また、今後の発生については、全国的に平年以下と予想されます。水稲の株元を注意深く観察し、成虫及び幼虫を認めた場合は、都道府県病虫害防除所から発表される発生予察情報で防除情報を確認し、発生に応じて薬剤を散布してください。
- ・ セジロウンカ及びコブノメイガの飛来量は、全国的に平年以下となっています。また、今後の発生も、現時点では平年以下と予想されます。

【大豆】

- ・ 吸実性カメムシ類の発生は、北東北、南関東、東海及び近畿の一部で「やや多い」と予想されます。ほ場での発生状況に注意し、適期防除に努めてください。
- ・ ハスモンヨトウの発生は、南関東の一部で「多い」、北関東及び北九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。ハスモンヨトウの若齢幼虫は集団で葉裏を食害し、白変葉（かすり・レース状の葉）を生じさせます。白変葉が認められた場合には、薬剤散布を実施してください。

【果樹】

（果樹共通）

- ・ 果樹カメムシ類の発生は、甲信、東海、近畿、中国及び北九州の一部で「やや多い」となっています。また、今後の発生は、関東以西の広い地域で平年よりも発生が多くなると予想されます。例年カメムシ類の被害が多い園地や、山林に隣接した園地では、果樹園の観察をきめ細かく行い、飛来があった場合、初期からの防除を徹底するよう心掛けてください。
- ・ ハダニ類の発生は、今後の気象予報で高温、小雨が予想されていることから、多くなると予想されます。発生を認めた場合、薬剤による防除を実施してください。

（かんきつ）

- ・ かいよう病の発生は、南関東の一部で「やや多い」、四国の一部で「多い」となっています。今後の発生は、南関東の一部で「やや多い」と予想されます。伝染源となる発病葉及び発病枝は除去して、確実に園外で処分し、発生に応じて薬剤散布を実施してください。特に、本病は風雨により感染が助長されるので、台風など風雨が強まることが予想される場合には、事前に薬剤を散布してください。
- ・ そうか病の発生は、近畿の一部で「やや多い」ほかは、平年以下となっています。今後の発生は、全国的に平年以下と予想されます。しかし、既に発生が見られる園地では、伝染防止のため、発病葉及び発病枝は除去して、確実に園外で処分し、薬剤散布を実施してください。
- ・ 黒点病の発生は、北九州の一部で「やや多い」となっています。今後の発生は、北九州で「多い」又は「やや多い」、南九州の一部で「やや多い」と予想されます。伝染防止のため、枯れ枝は除去し、降雨の状況に応じて適切に薬剤散布を実施してください。
- ・ チャノキイロアザミウマの発生は、東海及び北九州の一部で「やや多い」となっています。今後の発生は、北九州の一部で「多い」又は「やや多い」と予想されます。園内観察を行い、発生に応じて薬剤の散布を実施してください。
- ・ ミカンハダニの発生は、九州の一部で「やや多い」となっています。なお、気象の1か月予報が高温、小雨のため、今後の発生は、南関東、中国及び四国の一部で「やや多い」、九州の一部で「多い」又は「やや多い」と予想されるので、発生に応じて薬剤を散布してください。

（りんご）

- ・ ナシヒメシンクイ、モモシンクイガ等のシンクイムシ類の発生は、全国的に平年以下となっています。なお、今後の発生は、北海道で「やや多い」ほかは、平年以下と予想されます。地域のフェロモントラップでの誘殺状況に応じて、適期に防除してください。
- ・ ナミハダニ、リンゴハダニ等のハダニ類の発生は、北東北の一部で「多い」となっています。なお、今後の発生は、東北、甲信及び北陸の一部で「多い」又は「やや多い」と予想されます。園内観察を行い、発生に応じて薬剤を散布してください。

(なし)

- ・ 黒星病の発生は、東北、甲信、東海、近畿及び九州の一部で「やや多い」、関東及び中国の一部で「やや多い」又は「多い」となっています。なお、これらの地域では、今後も同様に平年よりも発生が多くなると予想されます。発生状況に注意して適期に薬剤を散布してください。また、発病部位は伝染源となるので、早期に除去し、適切に処分してください。本病は、降雨が続くと感染が拡大するので、天候の推移を見て、散布間隔が開き過ぎないように薬剤を散布してください。
- ・ 黒斑病の発生は、南関東、中国及び北九州の一部で「やや多い」となっています。なお、今後の発生は、全国的に平年以下と予想されます。発生状況に注意して適期に薬剤を散布してください。また、発病部位は伝染源となるので、早期に除去し、適切に処分してください。
- ・ ナシヒメシンクイの発生は、東海、中国及び北九州の一部で「やや多い」となっています。なお、今後の発生は、南関東の一部で「多い」、北関東、北陸、東海及び北九州の一部で「やや多い」と予想されます。地域のフェロモントラップでの誘殺状況に応じて、適期に防除してください。
- ・ ハダニ類の発生は、南九州の一部で「やや多い」ほかは、平年以下となっています。なお、今後の発生は、南関東の一部及び北陸で「多い」、東北及び北九州の一部で「やや多い」と予想されます。園内観察を行い、発生に応じて薬剤を散布してください。

(もも)

- ・ せん孔細菌病の発生は、甲信の一部で「やや多い」ほかは、平年以下となっています。なお、今後の発生は、全国的に平年以下と予想されます。罹病枝の除去を確実に行ってください。また、本病は、降雨や強風により発生が助長されるので、降雨の合間を見て薬剤を散布してください。
- ・ ハダニ類の発生は、中国の一部で「やや多い」となっており、今後の発生は、中国及び四国の一部で「やや多い」と予想されます。園内観察を行い、発生に応じて薬剤を散布してください。

(ぶどう)

- ・ ベと病の発生は、北九州の一部で「多い」、南関東の一部で「やや多い」となっています。なお、今後の発生は、南関東及び甲信の一部で「やや多い」、北九州で「多い」又は「やや多い」と予想されます。本病は降雨により発生が助長されるので、天候に注意して適期防除を実施してください。
- ・ チャノキイロアザミウマの発生は、全国的に平年以下の発生となっています。なお、今後の発生は、北東北の一部で「多い」、甲信の一部で「やや多い」と予想されます。園内観察を行い、発生に応じて薬剤の散布を実施してください。

(かき)

- ・ 炭そ病の発生は、全国的に平年以下の発生となっており、また、今後の発生も平年以下と予想されます。
- ・ うどんこ病の発生は、東海及び近畿一部で「やや多い」ほかは、平年以下の発生ととなっています。なお、今後の発生は、近畿、中国及び四国の一部で「やや多い」と予想されます。

- ・ これらの病害については、果樹園の観察をきめ細かく行い、発病枝や被害果実の除去を行うとともに適期に薬剤散布を実施してください。
- ・ フジコナカイガラムシの発生は、東海、中国及び北九州の一部で「やや多い」となっています。なお、今後の発生は、東海及び四国の一部で「やや多い」と予想されます。早期発見に努め、発生を認めた場合は薬剤を散布してください。

【茶】

- ・ 炭そ病の発生は、近畿の一部で「やや多い」ほかは、平年以下となっています。なお、今後の発生は、南関東の一部で「多い」、近畿の一部で「やや多い」と予想されます。園内観察を行い、発生に応じて薬剤を散布してください。
- ・ クワシロカイガラムシの発生は、東海の一部で「やや多い」ほかは平年以下となっています。なお、今後の発生は、全国的に平年以下と予想されます。ふ化幼虫の発生状況を観察し、病害虫防除所等が発表する情報を参考に、ふ化最盛期に薬剤散布を実施してください。
- ・ チャノコカクモンハマキの発生は、近畿の一部で「やや多い」となっており、今後の発生は、南関東の一部で「多い」、近畿の一部で「やや多い」と予想されます。チャハマキの発生は、南関東の一部で「多い」となっており、今後の発生は「やや多い」と予想されます。これらの害虫は、地域の予察灯やフェロモントラップでの誘殺状況に応じて、適期に防除してください。
- ・ チャノホソガの発生は、南関東の一部で「多い」となっており、今後の発生は、南関東の一部で「多い」、近畿及び北九州の一部で「多い」又は「やや多い」と予想されます。
- ・ チャノキイロアザミウマの発生は、北九州の一部で「多い」又は「やや多い」となっており、今後の発生は、南関東の一部で「多い」、近畿及び北九州の一部で「やや多い」と予想されます。
- ・ チャノミドリヒメヨコバイの発生は、南関東の一部で「多い」、近畿の一部で「やや多い」、九州の一部で「多い」又は「やや多い」となっており、今後の発生は、南関東の一部で「多い」、近畿及び北九州の一部で「やや多い」と予想されます。
- ・ これらの害虫が多く発生している茶園では、萌芽期に薬剤による防除を行ってください。

【野菜・花き類】

- ・ 6月中旬以降、天候が高温・小雨となったことから、病害の発生は少なくなっていますが、一方、アザミウマ類、ハダニ類等の害虫の発生が多くなっています。
- ・ 野菜類に広く被害を及ぼすタバコガ類及びハスモンヨトウは、気象条件が高温・小雨傾向で推移すると、発生が多くなるので、今後の天候情報に注意して下さい。また、タバコガ類の幼虫は、果菜類の果実や葉菜類の結球部に食入すると防除が困難となるので、若齢期をとらえた適期防除を行ってください。
- ・ 罹病葉や罹病果は、病害の伝染源となるので、施設及び圃場外に除去し、確実に処分してください。

今後の発生量が多い・やや多いと予想される病虫害及び対象地域

作物名／病虫害名	発生が多い地域	発生がやや多い地域
トマト		
黄化葉巻病	――	南関東、四国
アザミウマ類	北東北	――
コナジラミ類	北関東	南関東、北九州
なす		
アザミウマ類	北関東	北陸、四国
コナジラミ類	北関東	――
ハダニ類	南関東、四国	――
きゅうり		
うどんこ病	――	南東北、南関東、甲信
アブラムシ類	北東北	南関東
いちご		
うどんこ病	――	北関東、南九州
炭そ病	――	東海、四国
ハダニ類	北関東	北九州
ねぎ		
ネギアザミウマ	東北、南関東、北陸	北関東、近畿、北九州
ネギハモグリバエ	南関東、四国	北東北
きく		
アザミウマ類	南東北	東海
ハダニ類	北関東、四国	南東北、北陸

その他

前回（平成 20 年 7 月 24 日）以降、各都道府県が発表している発生予察情報は下記のとおりです。

- ・ 注意報（前回未発表）

発表月日	県名	作物名	病虫害名
7 月 23 日	宮城	水稻	斑点米カメムシ類

・ 注意報

発表月日	県名	作物名	病害虫名
7月25日	京都	水稻	斑点米カメムシ類
7月28日	香川	果樹全般	果樹カメムシ類
7月28日	北海道	りんご	モモシンクイガ
7月29日	奈良	茶	ミカントゲコナジラミ
7月29日	石川	水稻	斑点米カメムシ類
7月30日	富山	水稻	斑点米カメムシ類
7月30日	島根	水稻	斑点米カメムシ類
7月30日	山形	水稻	いもち病（穂いもち）
7月30日	新潟	なし	ハダニ類
7月31日	青森	ねぎ	ネギアザミウマ
7月31日	岩手	ねぎ	ネギアザミウマ
7月31日	岩手	りんどう	アザミウマ類
7月31日	福岡	水稻（普通期）	斑点米カメムシ類
7月31日	青森	水稻	斑点米カメムシ類
8月1日	岡山	水稻	斑点米カメムシ類
8月1日	福島	水稻	斑点米カメムシ類
8月1日	福島	水稻	いもち病（穂いもち）
8月6日	滋賀	水稻	斑点米カメムシ類

・ 特殊報

発表月日	県名	作物名	病害虫名
7月29日	長野	スターチス	病名未定（Grapevine Algerian latent virus (GALV)）による病害）
7月30日	佐賀	水稻、大豆、野菜類、果樹類	ミナミアオカメムシ
7月30日	新潟	西洋なし	セイヨウナシ褐色斑点病（仮称）
7月30日	新潟	すいか	スイカえそ斑点病（MNSV-W）
8月1日	沖縄	マンゴー	マンゴー枝枯細菌病（仮称）

＜平成 20 年度の病害虫発生予察予報の発表予定日＞

第 1 号：4 月 24 日（木曜日）・・・発表済み
第 2 号：5 月 15 日（木曜日）・・・発表済み
第 3 号：6 月 12 日（木曜日）・・・発表済み
第 4 号：7 月 10 日（木曜日）・・・発表済み
第 5 号：7 月 24 日（木曜日）・・・発表済み
第 6 号：8 月 7 日（木曜日）・・・今回発表
第 7 号：9 月 4 日（木曜日）
第 8 号：10 月 2 日（木曜日）
第 9 号：11 月 13 日（木曜日）
第 10 号：2 月 19 日（木曜日）

お問い合わせ先

消費・安全局植物防疫課
担当者：防除班大岡，城島
代表：03-3502-8111（内線 4562）
ダイヤルイン：03-3502-3382
FAX：03-3502-3386

当資料のホームページ掲載 URL
<http://www.maff.go.jp/j/press/>